

100周年記念事業のご紹介

夏休み企画 小学生親子クッキング教室

8月7日㊤、8日㊤の2日間、小学生親子を対象に、高田公園オーレンプラザでクッキング教室を実施しました。料理を作りながら親子のコミュニケーションを深め、炎に親しんでもらうことを目的としています。

今回は絵本に出てくるお菓子の人気投票を事前に行い、最も人気があった“ぐりとぐらの「カステラ」”など計4品の料理を親子で協力しながら作りました。



親子で学ぶ！ガス施設めぐりと火おこし体験

8月6日㊤、9日㊤の2日間、小学生親子を対象に、ガス施設めぐりと火おこし体験を実施しました。

人類に明るさ・暖かさ・おいしさ・安全という恩恵を与えてくれた“火”。火を見たことがない、火を扱ったことがない子どもたちが増えていると言われている中、この体験を通して火の大切さ、便利さ、必要性、安全な扱い方を伝えていきます。



高田本町商店街に！ まちなかショールームを開設

10月2日から23日の約3週間限定で、本町商店街に“まちなかショールーム”を開設します。

最新ガス機器を展示し、市内のシェフが目の前で調理を行う「朝市レストラン」などのイベントも行います。

詳しくは、広報上越9月1日号やホームページをご覧ください。



このほか、10月1日に記念式典や記念講演を行います。

ガスっていいね！ ガス水道フェア2018を開催

10月27日㊤、28日㊤の2日間、上越観光物産センターと上越科学館の2会場で“ガス水道フェア2018”を開催します。

歴史パネルの展示のほか、最新ガス機器の展示や特別価格での販売、楽しいイベントが盛りだくさんです。ご家族やご友人をお誘いのうえ、皆さまのご来場をお待ちしています。



-----ガス機器の購入については、ガス水道局指定ガス器具販売業者、指定工事業者へお問い合わせください。-----

掲載期間終了

掲載期間終了

掲載期間終了

- 編集・発行
上越市ガス水道局 総務課経営企画室
TEL 025-522-5514
<http://gwhp.city.joetsu.niigata.jp/>
- 料金のお問い合わせ先
TEL 025-522-7030（料金センター）

<ガス水道局指定ガス器具販売業者>

ウイズガス

ガス水道だより

～ 公営ガス事業100周年記念特別号 ～



大正期



昭和35年頃



高田市瓦斯製造所とガスメーターの移り変わり



昭和50年頃



現在

上越市のガス事業は今年で100周年を迎えました。
これまでのご愛顧に深く感謝いたします。
これからも安全な都市ガスの安定供給に努めます。



公営ガス事業100周年

上越市ガス水道局

上越市公営ガス事業100年のあゆみ(大正7年10月創立)

■ガス事業のはじまり

明治40年4月、長岡の殖栗順平(うめぐりじゅんぺい)らが高田に天然ガスを用いた事業を起こそうと計画しました。郷津油田から石油とガスの発掘を試みましたが、肝心のガスがなかなか出なかったため事業の進展をみませんでした。

電灯が普及しなかった大正初期、ガスは灯火用として珍重されました。上越電気の創設者・金子伊太郎は、ガス事業を自分で起こそうと計画し、大正2年4月に高田瓦斯株式会社を設立しました。大正4年8月には営業を開始しましたが、収益が予想より少なく経営は赤字でありました。その原因は、第一次世界大戦のさなかで石炭が暴騰したことや、消費が安い薪炭に流れたためであり、会社は創立早々経営困難に陥りました。

■ガス事業の市営化

大正7年、経営困難から高田瓦斯株式会社に解散の声が起こりました。これを受け、倉石源造(くらいしげんぞう)市長は市の事業としてガス事業を継続できないか諮問し、10月に市の事業としました。409戸へガスを供給し、ここに県内で初となる公営のガス事業が誕生しました。

※表紙の写真は、現在の北本町2丁目にあった創立当初の瓦斯製造所です。石炭でガスを製造していました。



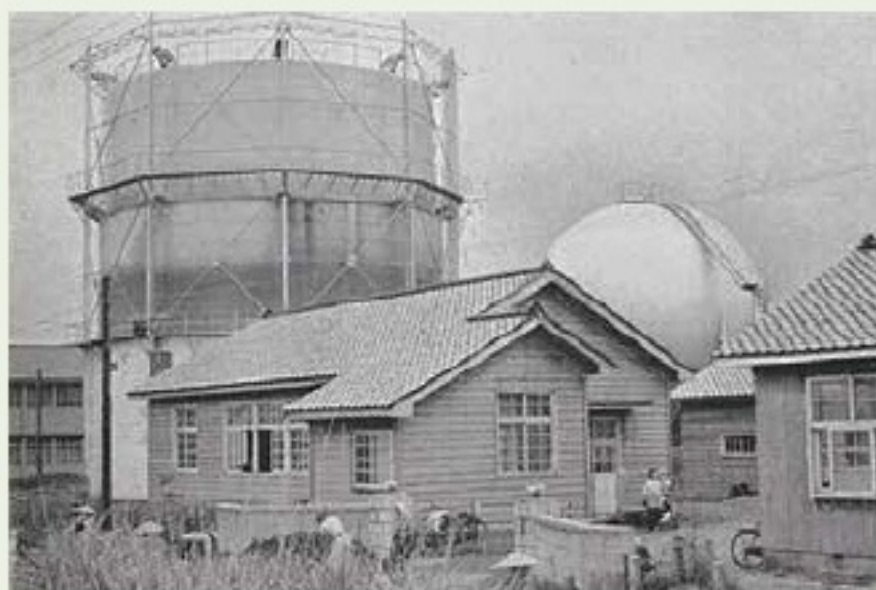
市営化の決定を知らせる新聞記事
(大正7年10月19日高田新聞より)

戦後は都市ガスの利用が急増したことに加え、郷津鉱業所のガス産出が激減し、供給量不足が深刻化しました。この窮状を救ったのは、当時開発されつつあった頸城ガス田の天然ガスです。市は帝国石油と天然ガス受入れの契約を結び、安定的な供給源を確保しました。その結果、昭和35年には石炭ガス製造が中止され、以後頸城ガス田に全量依存することとなりました。

■旧直江津市、旧大潟町、旧柿崎町、旧中郷村

昭和30年には直江津市でも、新市施行を機にガス事業の計画が持ちあがりました。昭和31年1月に事業認可(事業計画5か年)を得て、同年7月には川原町ガス供給所(有水ガスホルダー 2,000mi)が完成しました。また、昭和33年9月には県内初となる球形ガスホルダーが同供給所に建設され、注目を集めました。

県内初の球形ガスホルダー(右)と従来の円筒型ガスホルダー▶



市営になってからガス経営は順調に黒字でしたが、昭和のはじめから世界的不況の影響もあって段々と需要が少なくなり、ピーク時には1,500戸あった供給戸数が昭和12年には990戸にまで減少しました。これに対し市は、ガスの引込料を無料にするなど需要の確保に苦慮しました。

その後、日中戦争で原料炭の入手が困難となったため、天然ガスに切り替えることを検討し、昭和13年3月に日本石油株式会社郷津油田から約7kmの長い鉄管を敷いて天然ガスを受け入れ、同年9月に石炭ガスの製造を中止しました。しかし、昭和19年9月には軍需工場で多量のガスを必要としたため、石炭ガスの製造を再開し、昭和30年代前半まで天然ガスとの混用方式を続けました。

頸城ガス田の発見により東京までパイプラインが延伸したことから、その沿線町村の都市ガス事業化の気運は大いに高まりました。昭和33年8月、まず大潟町で事業が立ち上がり、翌34年1月から地元産天然ガスを利用して888戸に供給を開始しました。続いて昭和36年7月には柿崎町が事業認可を受け、翌37年7月から800戸に供給を開始しました。さらに、昭和38年8月、中郷村でガス事業が始まり、全国初の村営ガス事業として注目され、同年12月から723戸に供給を開始しました。



昭和34年頃の大潟町有水ガスホルダー



昭和37年頃の柿崎町有水ガスホルダー

■上越市の誕生

昭和46年4月、高田・直江津両市が合併して上越市が誕生し、供給戸数22,808戸で県内第2位の需要家数を有するガス事業となりました。しかし、その頃から急激な経済成長と石油危機などの影響から原料ガスの大幅な値上げが行われ、お客さまにも相次ぐ値上げをお願いせざるを得ない状況が続きました。また、昭和48年には全国的な高カロリー化の流れから、各事業者、工事店等延べ20,076人を動員し、ガスの熱量変更を行いました。昭和50年代になると、頸城ガス田の産出量が減少傾向となり枯渇化が心配されたことから、天然ガスを安定的に供給するため、昭和53年10月に春日山ガス供給所を建設しました。

平成17年1月1日、周辺13町村と合併し、新しい上越市が誕生しました。ガス事業も柿崎町、大潟町、中郷村の事業を継承しました。平成20年には、急激なガスの需要に対応するため新たに大潟ガス供給所を建設しました。

■新たな100年に向けて

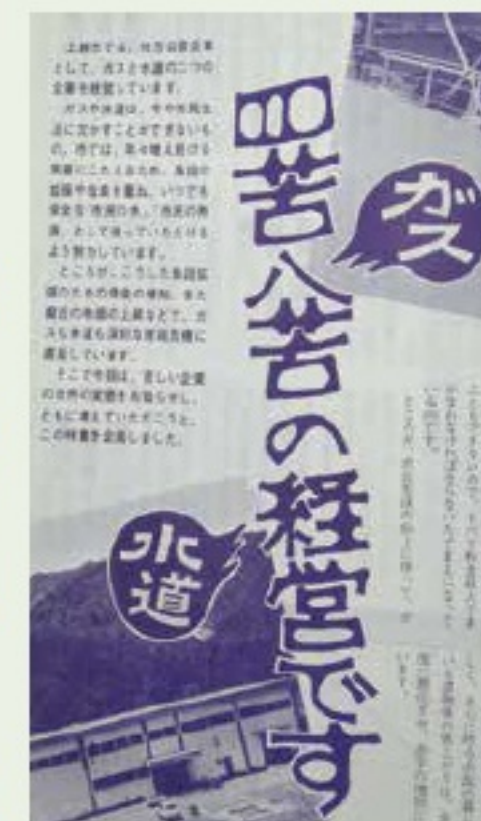
現在、大切なライフラインであるガスを将来にわたって安全で安定的に供給するため、地震などの災害に強い管への入替を行っています。併せて、災害後の復旧を迅速に進めるため、供給の範囲をブロックで区切る作業を進めています。

また、お客さまに快適なガスライフを送っていただくために、「新築お祝い3年割」、「子育てプラス割」を始めとしたお得な料金プランを設けたり、まちなかショールームやガス水道フェアなど最新ガス機器に触れられる機会やイベントなども実施しています。

お客さまに選ばれる公営企業を目指して、これからも保安の確保はもとより、事業の推進に努めてまいります。



昭和38年頃の中郷村の
配管工事の様子



広報じょうえつ
昭和49年12月15日号



耐震性に優れた管への入替